

第165回 統計委員会 議事概要

1 日 時 令和3年6月30日（水）9:30～12:00

2 場 所 W e b 会議

3 出席者

【委員】

北村 行伸（委員長）、椿 広計（委員長代理）、伊藤 敦子、岩下 真理、川崎 茂、
神田 玲子、清原 慶子、佐藤 香、嶋崎 尚子、津谷 典子、中村 洋一、宮川 努

【臨時委員】

宇南山 卓、川口 大司、菅 幹雄、成田 礼子

【幹事等】

総務省統計局長、総務省政策統括官（統計基準担当）、厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）、農林水産省大臣官房統計部長、経済産業省大臣官房調査統計グループ長

【審議協力者】

内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官、日本銀行調査統計局参事役、東京都総務局統計部長

【事務局（総務省）】

谷川総務大臣政務官、長屋総務審議官、岩佐大臣官房審議官

統計委員会担当室：萩野室長、栗原次長、重里次長

政策統括官（統計基準担当）：吉開政策統括官、山田統計企画管理官

4 議 事

- (1) 「令和4年度における統計リソースの重点的な配分に関する建議」（案）について
- (2) 諮問第149号の答申「経済構造実態調査の変更及び工業統計調査の中止について」
- (3) 諮問第153号の答申「木材統計調査の変更について」
- (4) 諮問第155号「毎月勤労統計調査の変更について」
- (5) 部会の審議状況について

5 議事概要

- (1) 「令和4年度における統計リソースの重点的な配分に関する建議」（案）について

北村委員長から、資料1-1及び1-2に基づき、前回の統計委員会で提示した素案からの修正内容について説明が行われ、原案のとおり採択された。

主な発言は、以下のとおり。

- ・ 6月25日に令和2年国勢調査の人口速報集計が公表された。御協力いただいた国民の皆様や国勢調査を担当された全ての方に感謝する。昨年来のコロナ禍で、公的統計の持続可能性が深刻に提起されていた。コロナ禍で実査の困難に直面する

一方、国際比較のための取組についても統計委員会で議論した。国際的な統計の質の水準の確保、他方で地域での実査の困難への対応を行った令和2年度を踏まえて、令和4年度に向けて建議ができることは非常に意義がある。公的統計は民学産公官の連携・協力・協働の必要性が高まっている。厳しい環境だが、関係部局におかれては、「令和4年度における統計リソースの重点的な配分に関する建議」がこれまでの経験を踏まえた内容であることを力に、来年度に向けた適切な人材・財源確保に努めていただくようお願いする。

- ・リソース建議の内容について、全面的に支持する。特に統計データ人材の確保・育成については積極的に取り組んでいただきたい。現時点では、業務資格という組織内部の取り決めと理解しているが、各機関と連携して、修士・博士号をとれるような仕組みを盛り込み、どのようなキャリアが描けるかを組織として明確に示すことが必要。一朝一夕にはできるものではないが、優秀な人材を育成・確保するうえでキャリアの明確な提示は重要であるため、力を入れていただきたい。

(2) 諮問第149号の答申「経済構造実態調査の変更及び工業統計調査の中止について」

樁サービス統計・企業統計部会長から、資料2-1に基づき、答申(案)の説明が行われた。審議の結果、答申の文言を一部修正することとなり、修正は委員長に一任することです承された。

主な質疑は以下のとおり。

- ・経済構造実態調査については、今回の見直しの内容やその他関連する統計との関係を整理して公表してほしい。
個人経営の企業の状況は各産業によって異なるため、当該部分を含めない場合の、新たな経済構造統計の特徴をレポート等で公表していただくことが望ましいと考える。
→統計を利用される方に間違いなく使っていただきたいと考えているので、見直しの内容や情報の発信をしっかりと行っていきたい。
- ・今回の変更は画期的な改善であり、大いに評価したい。答申案の資料2-1の4ページについて、大分類AからDまでの企業については、⑩や⑭～⑰も調査するにもかかわらず、①～⑨しか調査しないように読めるので、修正が必要ではないか。
→産業大分類AからDの企業については調査票の裏面に当たる投入構造については把握しないという趣旨で、御指摘どおり、⑩や⑭～⑰も条件に当てはまれば調査をすることとしている。
- 引き取らせていただき、修正の要否も含めて対応を考えたい。
- ・以前、支払利息について意見させていただいたが、個別に複数の調査をするよりは、企業の実態を把握するために軸となる統計調査を決めていただくことで、報告側の負担軽減を図るという視点も、是非今後の検討の中で踏まえていただきたい。
9月にデジタル庁が設置されると、データの利活用などいろいろな面で機運が高まってくると思う。それを契機として、社会のデータの基盤となる公的統計においても、統計全体を俯瞰した上で、省庁間や国と地方自治体の間で、横断的に

データの連携や集約に関する取組を進めていただければ、と企業サイドとしては考える。

(3) 諮問第153号の答申「木材統計調査の変更について」

川崎産業統計部会長から、資料3-1に基づき、答申(案)の説明が行われ、原案のとおり採択された。

主な意見は以下のとおり。

- ・我が国は森林が多くを占めており、国際的な環境問題の中でも林業の意義が注目されている中、災害対策の観点からも、調査の重要性は薄まっていない。民間事業者が調査に加わることにより、統計調査の品質の向上だけではなく、林業への関心や地域における林業の位置づけの再確認など付随的な効果も期待したい。ついでには、適切に民間事業者への移行がなされるよう、これまでの調査の経験を丁寧継承いただくとともに、民間事業者の創意工夫が活用されるよう、当初の移行期の配慮をお願いしたい。
 - ・木材に関しては、林業、森林の自然環境、地球環境、地域社会など広範な分野との関連が非常に大きい。木材統計のみに限らず、幅広く林業や森林全体を捉えられる統計の作成を農林水産省にお願いしており、同省自身も既にその方向で取り組むとされているので、期待している。
- 民間事業者の履行能力等を確認できるよう、総合評価落札方式によって入札を行う。落札業社が林業に精通しているとは限らないので、これまでの調査で蓄積したノウハウをマニュアルやQ&Aに整理して提供するとともに、実際に調査を行ってきた地方農政局等においてOJTによりノウハウの移転を行うことも考えており、しっかり調査を実施できるよう配慮したい。
- また、木材・森林関係の調査結果をまとめた木材需給表等の形で、しっかり情報発信できるよう、農林水産省としても引き続き取り組んでいきたい。

(4) 諮問第155号「毎月勤労統計調査の変更について」

総務省から、資料4-1に基づき説明が行われ、その後、厚生労働省から関連して調査の不適切事案に関する説明が行われ、審議は人口・社会統計部会に付託されることとなった。

主な質疑は以下のとおり。

- ・(事案について)かなり深刻な問題。重く受け止めしっかり対応していただきたい。
 - ・厚生労働省の報告にもあったようなミスがあると、国民経済計算のQEを作成する上で、雇用者報酬の推計などの時間が限られてくるため問題であると思う。厚生労働省が直轄で行っていた東京都の部分に移管することについて、業務の引継ぎなども考えているようだが、継続性がある形で認識できるようになっているのか。調査の方法などが企業側にとっても継続的に受け止められるよう、また、回収率に大きな差がない形になるのかなど、審議の過程で議論していただきたい。
- 令和2年7月から、東京都と連携して問題点の洗い出しをしており、御指摘も踏まえながら着実に進めたい。

- ・毎月勤労統計に関して残された課題について、厚生労働省からは、速やかに取り組む課題と中長期的に取り組む課題に分けて取り組むとの説明を受けている。今回の変更内容は、速やかに取り組む課題に相当するもので、いずれも適切に取り組むべき事項であると考えている。

(5) 部会の審議状況について

- ① 津谷人口・社会統計部会長から資料5-1に基づき、人口・社会統計部会の審議状況について説明が行われ、総務省及び厚生労働省から資料5-1の別紙2に基づき、説明が行われた。

主な質疑は以下のとおり。

- ・質問主意書について、調査実施までの時間的な制約などを考えると、今回調査において「健診等の受診状況」の調査対象を現行のまま20歳以上に限ることは差し支えないと思う。一方で、健康票を見ると、飲酒、喫煙の後に健康管理に関する質問が入っており、順番を入れ替えて、18歳以上の人に健康管理を聞き、最後に20歳以上に飲酒、喫煙を聞くことも可能ではないか。今後も検討されるということなので、真剣に受け止めていただく必要があると思う。
→健診等の受診状況について、何歳から把握するかという点も含め、政策部局と検討していきたい。
- ・別紙1の健康票の問5及び問8について、現時点の取扱いに賛成。
「健診等の受診状況」の調査対象を直ちに18歳以上に引き下げるべきという意見ではないが、民法の改正等があることから、今後検討することは重要。未成年の健康診断については、小中高等学校や大学等において行っており、文部科学省が把握しているかなど、今後、他の調査での把握状況も踏まえ、「国民生活基礎調査」において未成年者の健診等の受診状況を調査することの可否について検討することが望ましいと思う。
→文部科学省とも調整して検討を進めていきたい。
- ・健康票の問5と問8の重複感の軽減については、部会構成員も重要であると十分認識している。問5は、様々な重要な政策の基礎資料となる健康寿命の推計に使われている。一方で、問8は、国際比較可能性の向上、障害者統計の充実に寄与するものであり、今回調査を実施して、データを分析し、検証を進めるよう答申に記載したいと思う。答申案は、これから作成するが、修正意見として記載のほか、内容によっては、検討課題として整理する場合もあると考えている。
質問主意書の関係についても、部会で審議をし、答申に反映する。
- ・日常生活における機能制限に関する調査事項の追加については、障害者統計の充実及び国際比較可能性の向上を図るため重要な取組と認識。既存の調査項目との重複感については、部会でも意見が多かったとの報告。政策上重要な利活用である既存項目については、変更が難しい中、新規項目は、統計充実の新たな必要性を踏まえたものなので、調整が難しいと思うが、引き続き部会審議の取りまとめを進めていただければと思う。
オンライン調査の導入に向け、システム設計上、調査実務上、対応すべき事項が多いと思うが、調査の効率化や回収率の向上につながるものと思う。現場の

声も聞き、進めていただきたい。

質問主意書の「未成年者の健康診断の受診状況の把握」に関しては、部会の検討状況を踏まえ、答申に課題として明記していただきたい。

② 産業統計部会の審議状況について（農業経営統計調査の変更）（報告）

川崎産業統計部会長から資料5-2に基づき、産業統計部会の審議状況について、説明が行われた。

主な発言は以下のとおり。

- ・ 農業経営体の把握の仕方を工夫する必要があるのではないかという指摘や、当初案と修正案を比較し、修正案で調査を実施することに問題はないかについて調査実施者において意見はあるか。
- 当初案は報告者負担軽減に傾注するあまり、調査の範囲について本来把握すべきところまで把握できない案であったことに審議を通じて気づかせていただいた。担い手の状況を可能な限り広く把握し、また、一定程度の負担軽減も確保できるということで、修正案に導いていただいたと思う。年齢は当然1年ごとに増えていくので、できるだけ柔軟に対応する、一方で調査精度も確保するという両方のバランスについて引き続き検討していく必要があると認識している。

③ 椿サービス統計・企業統計部会長から、資料5-3に基づき、サービス統計・企業統計部会の審議状況について説明が行われた。

主な発言は以下のとおり。

- ・ 経済構造実態調査を含めた3調査を同時・統一的に実施するための変更については、基本計画の方向性を踏まえたものであり、部会において3調査の重複是正及び報告者負担の軽減の観点から、適当と判断されたことについて、賛同する。ようやくここまできたか実感している。それ以外の変更点についても、部会において丁寧に議論され、一定の方向性について整理いただいた。

④ 津谷統計作成プロセス部会長から資料5-4に基づき、統計作成プロセス部会の審議状況について、説明が行われた。

主な発言は以下のとおり。

- ・ タスクフォースにおける「統計作成プロセス診断」の「要求事項」に係る審議では、日本品質管理学会規格や既存のガイドラインの内容をベースに、別途検討が進められている「標準マニュアル」との整合性も図りつつ検討を進めてきたところ、10月以降に実施予定の診断の試行的な取組も通じて、来年度以降の本格実施に向け更に検討を進めていきたいと考えている。
また、「統計作成プロセス診断」の活動が、他の品質管理に関連する取組と体系的に整理されることにより、統計作成府省の負担も最小限になるよう検討を進めていきたい。
- ・ 「点検・評価」の取組については、まずは順調に取組が始動したのものとして統計

委員会としても評価したい。この取組は、各府省における自立的・主体的な見直し・改善やユーザーに対する情報提供の充実、透明性の確保を図る観点から、非常に重要な取組であり、各府省一体となって取組の定着とともに更なる推進をお願いしたい。また、まずは部会を中心に統計委員会として必要な支援等を行っていただきたい。

「統計作成プロセス診断」の導入に向けては、タスクフォースにおける集中的な検討を含め部会審議の方向性を支持したい。統計委員会としてのミッションである統計作成プロセス診断の「方針」及び「要求事項」の最終的な取りまとめに向け、診断の試行的な取組の結果も踏まえつつ、さらに実効性あるPDCAサイクルが確立されるよう「点検・評価」などの既存の取組との連携や一体性確保の観点からも検討をお願いしたい。

次回の統計委員会は7月30日（金）午前に開催予定であり、実開催の場合には、若松庁舎の7階大会議室を予定している旨、事務局から案内された。

以上

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>